

山田家正名誉教授記念号の発刊に寄せて

学長 秋 山 義 昭

この度、人文研究第105輯を発刊するにあたり、長年本学学長の職にあられ、平成14年3月31日をもって任期満了退官された小樽商科大学名誉教授山田家正先生の多大なるご功績を讃え、本号を「山田家正名誉教授記念号」とさせていただきます。

山田家正先生は東京のご出身ですが、北海道の広大な自然に魅せられ、北海道大学に入学されました。昭和34年に理学部生物学科を卒業された後、同大学院理学研究科修士課程(植物学専攻)、同研究科博士課程に進学されました。北海道大学理学部助手、同講師を経て、本学には、昭和54年4月に助教授として赴任、翌年10月に教授に昇任しておられます。

先生のご専門は植物学、特に海藻の生態学の領域であり、昭和50年に北海道大学から理学博士の学位を取得、ダイビングをツールにした海藻研究においては、日本でも先駆的な存在となりました。なお、研究分野のご業績については、他の方による紹介がありますので、そちらに譲らせていただくことといたします。

先生は、本学で、一般教育等において生物学で教鞭を執られるかたわら、昭和61年7月から3期5年8カ月の長きにわたり、当時本学に併設の短期大学部主事(平成2年からは部長)を勤められました。

平成4年4月、戦後の大学昇格後第7代目の学長に就任され、平成14年3月に10年間の任期を終えられるまで、大変難しい時期ではありましたが、持ち前の優れた行政手腕を遺憾なく発揮して、本学の運営に実に立派な舵取り役を果たしてこられました。

本学の発展に寄与された先生の学長としてのご功績は、枚挙に暇がありませんが、強いて挙げるとすれば、国際交流の推進と実学の伝統を活かした地域貢献・産学連携がありましょう。

広い視野と国際感覚を身につけた人材を育てるために、以前から本学は国際交流に力を注いできましたが、山田学長の下で積極的に国際交流事業を推し進め、学生交換協定を締結する大学も、世界12カ国、17大学に及び、本学で学ぶ留学生も100人を超えるまでになりました。

また、先生は、知的資源の社会的還元を日頃から口にされ、大学と地域、社会、産業界との連携協力の重要性を説いていましたが、大学院教育、地域経済活性化の活動拠点としての札幌サテライトを開設することに、そしてさらに、経済研究所を改組して省令施設としてビジネス創造センターを設置することに尽力されました。

さらに、平成9年と13年の2度にわたりカリキュラムの改正を行い、大学院では平成5年から昼夜開講制の授業を行って広く社会人にも勉学の間を広げるなど、様々な大学改革を進めてこられました。

本学が、こうして社会に存在感を示し得る大学として着々と地位を固めてこられたのも、まさに先生のご努力とご活躍があったればこそと言えましょう。

本学教授会は、山田家正先生のこれまでの教育上、学術上のご功績はもちろんのこと、本学発展のためにこのような大きなご貢献をいただいたことに対し、小樽商科大学名誉教授の称号を授与することといたしました。

先生は、ご退官後もその適切な判断力、旺盛な行動力、卓越したリーダーシップが期待され、請われて北海道開拓記念館館長を勤めておられます。また、小樽市顧問、道博協会長、日博協理事、「能に親しむ会」会長等、多くの公職を引き受けておられます。ゆっくり身心の疲れを癒す暇も無く、またお忙しい毎日をお過ごしと聞いておりますが、いつまでもご壮健であられ、難

しい転換期を迎えた本学を見守り、今後とも温かいご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、記念号発刊のご挨拶といたします。